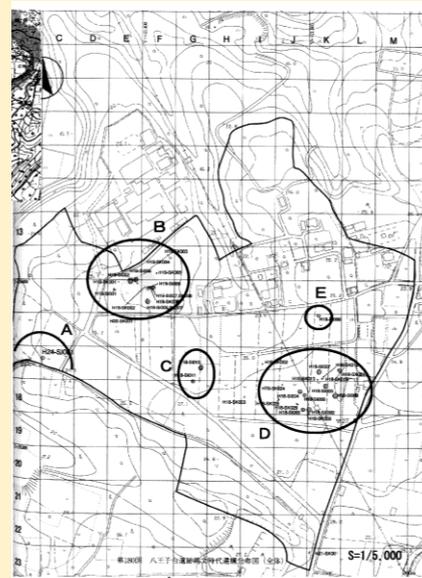


日本列島における適応形態の広域比較

—縄文時代中期末を巡って—



関東では環状集落が変容していく
中期末。列島各地でも同様の変化
はみられるのだろうか？

2019年12月22日（日） 明治大学グローバルホール

9時30分受付開始 10時発表開始 4時30分閉会

定員120名 事前受付なし 配布資料あり（無料）

連絡先 明治大学資源利用史研究クラスター 電話 03-3296-1873

ごあいさつ

1万年を超える長い縄文時代、関東地方においてそのピークは大規模な環状集落が形成される縄文中期にあり、環状集落が崩壊、遺跡が減少する中期末には文化・社会が衰退するといわれてきました。また、その要因は気候の寒冷化が原因とも考えられています。

しかし、近年の研究では、関東地方の中でも遺跡群の変化の仕方は一様ではないことが明らかになってきました。その変化をまずは、適応形態（居住と生業形態を組合わせた生存戦略）の変化として考えることが必要ではないでしょうか。

また、寒冷化が要因ならば、列島各地で、同じ時期に同様の変化がみられることが予測されますが、実際はどうでしょうか。

今回のシンポジウムでは、中期末前後の変化を日本列島の6地点を対象として比較し、その実状を捉えていきたいと考えています。

明治大学資源利用史研究クラスター 須賀博子

受付開始 9:30

開演 10:00

- | | | |
|-----|--------------------|------|
| 発表1 | 関東地方東部の変化と中期末を巡る問題 | 須賀博子 |
| 発表2 | 東北地方―北上川中流域の変化 | 八木勝枝 |
| 発表3 | 関東地方西部―黒目川流域の変化 | 奈良忠寿 |
| 発表4 | 中部地方―八ヶ岳南麓の変化 | 佐野 隆 |
| 発表5 | 東海地方―三河地域の変化 | 川添和暁 |
| 発表6 | 関西地方―琵琶湖沿岸地域の変化 | 瀬口眞司 |

休憩

討論

閉会 4:30